

ハーバーランド 東川崎町

●「東川崎町」の由来



ハーバーランドは1985（昭和60）年に着工され、1992（平成4）年に街びらきが行われた。旧国鉄湊川貨物駅の跡地を利用し、面積約23 ㍍の新たな街で、神戸市がインナーシティ再生、産業の高度化やソフト化など産業構造の変化に対応する担い手として、また、市民生活の多様化・個性化に対応した新しい形の商業・文化施設等の整備、ウォーターフロントの再生めざして建設をはじめたものである。情報文化施設（高度情報センターなど）・商業業務施設（百貨店、ホテルなど）・福祉教育施設（小学校、盲学校、総合教育センター、こべっこランド）・業務施設・住宅施設に分かれ、就業人口約15,000人、居住人口約3,000人計画で街づくりが進められた。

ところで、ハーバーランド一帯は「東川崎町」と呼ばれている。川崎とは河口の海に突き出た所を指し、このあたりは旧湊川の川崎の東側であったから「東川崎」と名付けられた。後年（1886年）、この地にたまたま川崎正蔵が川崎造船所（現・川崎重工）を造ったため、人名の川崎と元からの地名の川崎が偶然にも一致することになったのである。

場所：神戸市中央区東川崎町

◆「明治天皇御用邸跡」の碑(a)

●「弁天町（べんてんちょう）」の由来

宇治川の河口付近を弁天町というが、これはかつてこのあたりに弁財天（市杵島姫命



(a)

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

ハーバーランド 東川崎町

(いちしまひめのみこと)) をまつる巖島(いつくしま)神社があったことから名付けられたものである(巖島神社の項参照)。宇治川をはさんで弁天町の西側には幕末に長州藩の御用達を勤めた専崎弥五平(せんざきやごへい)(屋号を鉄屋)の屋敷があった。この屋敷は西南戦争の時、明治政府の運輸事務所となり、その後、1880(明治13)年から1885(明治18)年までは行在所(あんざいしょ)として使われ、1886(明治19)年からは明治天皇の御用邸として用いられるようになったのである。明治天皇をはじめ、皇太子(後の大正天皇)など多くの皇族が利用された。現在、ハーバーランド・ダイヤパーキングの前に、三菱倉庫株式会社が1924(大正13)年9月に建てた、「史蹟 明治天皇御用邸跡」の碑がある。

◆旧新港第五突堤信号所(b)

この信号所は1921(大正10)年に建設されたもので、完成当初は新港第四突堤にあった。神戸港に入港する船舶に対する信号所として設置されたもので、高さが46.3mある。1937(昭和12)年には新港第五突堤に移設され、1990(平成2)年までその役目を果たしてきた。役目を終えた二年後の1992(平成4)年に保存のため、ハーバーランドの現在地に移された。



(b)

◆八時間労働発祥地之碑(c)



(c)

日本での八時間労働制は1919(大正8)年に、川崎造船所(現川崎重工業神戸工場)で採用されたのが初めてである。当時の川崎造船所の社長は松方コレクションで知られる松方幸次郎で、彼はヨーロッパ外遊の経験を生かした先進的な経営者として名高く、当時十時間労働が当たり前だった日本で、八時間労働が世界の趨勢と判断して、それに踏み切ったのである。この松方の試みは、結果として八時間労働制を日本の基幹産業に浸透させるきっかけをつくったと評価されている。こうした、わが国初の八時間労働制発祥地を記念して、造船所に近いハーバーランドに、1993(平成5)年10月、彫刻家井上武吉制作の「八時間労働発祥地之碑」が兵庫労働基準連合会によって建てられた。

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著